

令和5年度 学校評価書(共通)後期

校名

宇和島市立遊子小学校

1 自己評価書

教育目標	「ふるさとを愛し、たくましく生きる児童の育成」
基本方針	○失敗を恐れず、学習にも運動にもあきらめずに挑戦する児童の育成に努める。 ○地域の教育資源を最大限に生かすふるさと教育の充実を図りながら、保護者や地域と連携協働することで、地域とともにある持続可能な学校を推進する。
本年度重点目標	○ユニバーサルデザインの視点を入れた授業改善や個に応じた指導を行うことで、誰一人取り残すことのない、個別最適な学びと協働的な学びの実現に努める。とともに、深い学びの充実を図る。(ICTの有効活用を研修する。) ○外遊びや様々な交流・体験活動を充実することで、自分や友達のよさを見つけ、いじめや不登校のない学校づくりに努める。(ゆすっこ宣言の活用を行う。) ○気持ちの良い挨拶や返事など、当たり前前が当たり前前のできる態度を育てる。 ○「自分の命は自分で守る」を合言葉に、学校安全教育の充実を図るとともに、安心・安全で充実した教育環境の整備に努める。 ○遊子の自然や歴史、産業など、地域の教育資源や人材を活用した体験活動に取り組むことで、ふるさと教育の充実を図る。

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	自校のねらいに沿って、各調査を分析し、成果と課題を把握し、具体的な対策を講じた。	・分析資料の作成	B↑	B↑
			・具体的な対策の実施	B↑		
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。	・教師アンケート	B↓	B↓
			ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。	・保護者アンケート	B	
			一人1台端末(iPad)及びEILS(えひめICT学習支援システム)を積極的に活用し、個に応じた新しい学びのあり方の推進に努めた。	・児童生徒アンケート	A	
	③	家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート	A↑	A↑
			・保護者アンケート	A		
			・児童生徒アンケート	A		
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート	B	B
			・保護者アンケート	B		
			・児童生徒アンケート	B↓		
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート	B	B↓
			・保護者アンケート	A↑		
			・児童生徒アンケート	A		
	(成果○と課題●) ○めあての提示、振り返りやまとめを丁寧に行った。全校でふるさと学習に取り組むことで、児童の地域への関心が高まった。 ○児童の頑張りにより、タブレット端末やデジタル機器の有効な活用について、へき地研究大会で取組を十分に紹介することができた。 ○各調査の分析から児童の苦手とする点が明確になり、それに対して指導を行うことができた。 ●授業改善には努めているが、個々が主体的に学習に取り組んでいるか、対話的な活動が十分に確保できているか、そこから深い学びにつながっているかについては十分ではない。家庭学習についても、個に応じた対応ができていない。 ●様々なテスト結果を受けて、丁寧に調査を分析し、指導に十分に生かしているとは言えない。 ●読書活動については改善傾向ではあるが、各学年に応じた本の選択や読書時間の確保ができていない。					
(改善策等) ・授業内で個々に考えさせる時間を確保し、教師がしゃべり過ぎず待つように心掛ける。 ・10分間集中テストを実施後に分析を行い、ICTを活用して児童へ指導を行う。 ・評価の目安を教師自身が明確にし、児童に伝えることで、教師と児童の評価に差が出ないようにする。 ・個々の実態把握から、理解の不十分な点について家庭学習で取り組めるよう分析をし、対応する。						

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A		
			・児童生徒アンケート	B↓		
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート	A↑	A
			・保護者アンケート	A		
			・児童生徒アンケート	A		
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート	A	A
			・児童生徒アンケート	A		
			・保護者アンケート	A		
	③	基本的な生活習慣の徹底	いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート	A	A
			・児童生徒アンケート	A		
			・保護者アンケート	A		
④	自己肯定感等	基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協力の下、学校全体で組織的に取り組んだ。	・教師アンケート	B	B	
		自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	・児童生徒アンケート	A		
		自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート	B		
		・児童生徒アンケート	A			

(成果○と課題●)
 ○これまで以上に、教職員で共通理解を図り、児童に関わることができた。
 ○小さなトラブルはあるが、子どもたちが日々、友達と上手に関わりながら生活することができている。
 ○児童の評価が下がった項目については、児童自身が、自分の挨拶の声の大きさや状態をきちんと把握できるようになったのではないかなと思う。
 ●褒めることが少なくなってしまった。
 ●ぐんぐん週間のカードの活用が十分にできておらず、必要に応じて個別にもっと関わっていく必要があった。

(改善策等)
 ・学期に1回程度、学級担任・学級担任以外との教育相談を実施してはどうか。コミュニケーション力の向上にもつながると思う。
 ・児童も挨拶が十分ではないと思っているので、全体で声の大きさなどを確認しながら様々な場面ではっきりと話すことを意識させたい。
 ・児童一人一人の行動に目を配り、些細なことでも声掛けをしたり、必要に応じて教師が粘り強く指導を行ったりしていく。

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス 仕事のやりがいを重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、 <u>教職員の意識改革</u> に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	C B	C
	②	働きやすい環境づくり 新型コロナウイルス感染症5類感染症への移行後の業務改善に向けて、教育活動の回復や精選に慣例にとられることなく取り組んだ。	・教師アンケート	B↑	B↑
		休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	A↑	A↑
③	他の教職員のサポート体制の充実 「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	A↑	A↑	
<p>(成果○と課題●) ○管理職のリーダーシップのもと、良い雰囲気で仕事ができている。 ○周りの先生方が相談や報告をしやすい雰囲気を作ってもらえた。 ○その日の退庁目標時刻を決め、目標が達成できるように努めた。へき地研究大会以降、心にも時間的にもゆとりができた ○ICTを使った業務(ロイロノートを使って時間割を送る、宿題の答えをタブレットに送る等)で、かなり効率がよくなった。 ●管理職が多忙のため、思うように相談できないことがある。 ●業務改善については、まだまだ、様々なことができると思う。</p> <p>(改善策等) ・いろいろなアイデアによって少しずつ改善が進んでいる。今後も必要がない業務等の洗い出しを行い、さらに改善を進めたい。</p>					

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	B	A
		学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	A↑	
			・保護者アンケート ・地域アンケート	A A	
	②	情報発信 家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	
			・地域アンケート	A	
③	来校・相談体制 保護者や地域の方々が来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A	
		・保護者アンケート	A		
		・地域アンケート	A		
<p>(成果○と課題●) ○学校だよりやホームページでの情報発信で、学校での様子がよく分かり、祖父母も楽しみにしている。(保護者) ○家庭や地域の協力により、教育活動を充実させることができた。 ●学校運営協議会についての理解が十分ではなく、話合いの内容も教職員に十分に周知できなかった。 ●学級通信の発行ができていない。</p> <p>(改善策等) ・学級通信の発行ができるように日頃から少しずつ文章を作成していく。 ・学校運営協議会に児童を参加させ、総合的な学習の時間を通しての学びを発表させる。また、その際は学級担任も参加し、来年度の総合的な学習の時間についての取組を検討したり、話合いの内容を周知するようにしたい。</p>					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

(地域からの自由記述より)

・学習発表会がとても良かった。限られた時間の中で、地域を意識した内容、大人の自分たちも考えさせられ、一緒に頑張ろうという気持ちになった。子どもたちの表情がいいなと感じた。新企画(?)の抽選会、コーヒータムは楽しいひとときだった。来場者も多く良かった。「現状維持」が大変な今日この頃、地域も協力して子どもたちを守り育てていきたい。
 ・子どもたちが自主的に学ぼうとする気持ちを養うことが大事だと思う。人数が少ないので、大人に頼りがちになるので積極性を持たせてほしい。
 ・UCATで連合音楽会の練習をしているところを見た。笑顔が少し物足りない感じがして、来年度は表情豊かな遊子小の児童に成長してもらいたい。それぞれに捉え方は違うと思うが、遊子小の子どもたちは素直に成長していると思う。学年を超え、全学年で楽しめて大笑いできるイベントを子どもたちの案を基にできたらいいと思う。学習発表会で、子どもたちの手で大人にふるまった接待が良かった。応援してもらっているお礼のような温かみがあり、互いのつながりが深まったように思う。子どもたちのためにいろいろと活動していきたい。先生方の遊子愛に感謝。

→様々な御意見をいただいた。ありがたい。コロナ禍から徐々に以前の活動に戻りつつある。様々な業務改善は必要だが、地域と共に子どもたちを育てていくために必要な活動は積極的に行いたい。そのために、学校運営協議会での有効な話合いや地域コーディネーターを中心とした地域人材の活用、組織づくりを行っていく。